

第5回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年11月18日（月）

17時～18時30分

会場：篠ノ井総合交流センター

次第

1 開 会

2 県教育委員会挨拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

（1）第4回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

（2）学校(学科)間連携の紹介

（3）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）

（4）その他

5 その他

次回の予定

【期日】 令和7年1月（予定）

【場所】 千曲市役所（予定）

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

区分	氏名(○:座長)	所属等	役職等
自治体	1 西澤 雅樹	長野市	副市長
	2 丸山 陽一	長野市	教育長
	3 小川 修一	千曲市	市長
	4 小松 信美	千曲市	教育長
	5 塚田 常昭	坂城町	教育長
産業界	6 市川 伸一	J Aグリーン長野総合企画部企画広報課	課長
	7 福田 享士	株式会社システックス	常務取締役
	8 矢島 隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
	9 滝沢 秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
学識経験者	10 森下 孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
	11 ○藤本 光世	元県立高等学校長	
地域	12 坪井 俊文	長野地域振興局	局長
	13 海野 忠一	長野市(篠ノ井地区)	
	14 香山 篤美	長野市(松代地区)	
	15 赤地 憲一	千曲市	
同窓会	16 越 正至	更級農業高校同窓会	同窓会長
	17 細川 隆男	松代高校同窓会	同窓会長
	18 赤塩 曜子	屋代南高校同窓会	同窓会長
PTA	19 小田切 勇	更級農業高校PTA	PTA会長
	20 宮澤 洋介	松代高校PTA	PTA会長
	21 山崎 みさ子	屋代南高校PTA	PTA会長
	22 吉澤 多恵子	長野市PTA連合会	代表
	23 唐木 文子	更埴PTA連合会	代表
小中学校等関係者	24 宮尾 昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
	25 中野 禎仁	更埴校長会 戸倉上山田中学校	校長
	26 倉島 さつき	稲荷山養護学校	校長
再編対象校	27 武田 拓斗	更級農業高校(生徒)	農業クラブ会長
	28 櫻井 大河	更級農業高校(生徒)	農業クラブ会長
	29 武藤 穰	更級農業高校	校長
	30 徳武 晃	更級農業高校	教諭
	31 今川 千桜	松代高校(生徒)	商業科代表
	32 岡澤 愛実	松代高校(生徒)	生徒会長
	33 向井 健太郎	松代高校	校長
	34 宮林 正樹	松代高校	教諭
	35 伊藤 七菜	屋代南高校(生徒)	ライフデザイン科代表
	36 渋沢 葉奈	屋代南高校(生徒)	ライフデザイン科代表
	37 竹内 宏枝	屋代南高校	校長
38 肥田 尚音	屋代南高校	教諭	

【事務局】

学校名	氏名
更級農業高校	丸山 暢之(教頭) 徳武 晃 石澤 圭祐
松代高校	阿部 栄智(教頭) 宮林 正樹 坂本 成久
屋代南高校	櫻田 智也(教頭) 肥田 尚音 土屋 友紀子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	山崎 巖	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第4回 長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年9月3日(火) 18時00分～19時30分		
場所	千曲市役所 301会議室		
出席 (敬称略)	西澤雅樹、丸山陽一、小川修一、小松信美、塚田常昭、福田享士、矢島隆生、滝沢秀治、森下孟、藤本光世、坪井俊文、海野忠一、香山篤美、赤地憲一、越正至、細川隆男、赤塩曜子、小田切勇、宮澤洋介、山崎みさ子、吉澤多恵子、唐木文子、宮尾昭広、中野禎仁、武田拓斗、武藤穰、徳武晃、今川千桜、向井健太郎、宮林正樹、伊藤七菜、竹内宏枝、肥田尚音 (以上33名)		
欠席 (敬称略)	市川伸一、倉島さつき(以上2名)	傍聴者	24名(オンライン1名含む) 報道関係4社
事務局	更級農業高校	丸山教頭、徳武教諭、石澤教諭	
	松代高校	阿部教頭、宮林教諭、坂本教諭	
	屋代南高校	櫻田教頭、肥田教諭、土屋教諭	
当日資料	第4回懇話会資料		

会議事項

- (1) 第3回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 再編基準の見直しについて
- (3) 更級農業高校の学科改編について
- (4) これまでの懇話会の振り返り(意見交換)
- (5) その他(懇話会開催時間について)

主な内容(意見・質問等)(→回答)

- (1) 第3回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(⇒意見なし 承認)
- (2) 再編基準の見直しについて(事務局説明)
 - ・令和6年3月26日県教育委員会定例会において、「再編に関する基準等」について再検討することとし、これに伴い、本基準の適用を一定期間留保することを公表した。
 - ・再編基準については、再編整備計画の対象校以外の高校について適用するものであり、現在進めている再編整備計画は引き続き進めていく。
 - ・今回再検討としている基準は、令和12年3月を完了目標としている第2期再編におけるものである。その後の基準については、今後の社会情勢、地域産業界のご意見等を踏まえて、早めに検討する場の設置を考えていく予定である。今後は、「再編・整備計画」及び「特色ある県立学校づくり懇談会まとめ」との整合性に留意しながら慎重に進めていく。
⇒質問・意見なし
- (3) 更級農業高校の学科改編について(更級農業高校説明)

【質問・意見】

 - ・屋代南高校では地域の企業や福祉施設などと連携しながら大変重要な学びを行っているが、学科改編の話の中に服飾関係のデザインコースの説明がなかった。県教委、或いは更級農業高校として、これからの職業高校のあり方について、どのように考えているのか。
→今回は、あくまでも更級農業高校の学科改編についての説明である。これからの服飾科を発展させた学びについて、懇話会の中で議論していただきたい。
 - ・学科改編の検討はいつから始まったのか。
→農業科や旧第4通学区中学校卒業生数等の状況から、昨年1年かけて検討してきた。
 - ・校長の思いがあれば、各学校で学科改編することは、この段階でも可能なのか。また、学科改編の内容が屋代南高校の学びに重なる分野にも及んでおり、更級農業高校に集約されると皆さんが考えてしまうのではないかと危惧している。長野千曲総合技術新校の校地や学びについては、これからの議論の中で練っていくことを確認したい。
→学科改編は、校長の提案をもとに県教委と相談しながら進めるものである。また、今回の学科改編の内容は新校での学びに繋がるものであり、懇話会としての共通認識をもったうえで、どのような学校や学びをつくりたいのか議論していただき、そのうえで校地や施設・設備について検討していきたい。
 - ・地域の産物をコースに添えていることから、地域の農業を担う人材を育てたいという意図があるのか。農業科で学んだ生徒が、農業方面へスムーズに進めるようなサポートも必要だと感じた。
→農業で学び、様々な力をつけ、農業従事者、農業後継者を育てることはもちろんこと、他産業にも通じるような人材育成をしていきたいと考えている。
 - ・学科改編の検討において、生徒の声が入っているのか。
→現在の生徒が行っている様々な取組が生きるように改編を行った。その一方で、商業的な部分に重きを置くコースについては、今後の統合を考慮して縮小した。

(4) これまでの懇話会の振り返り

【質問・意見】

○各専門学科に関連する上級学校への進学や企業への就職について

- ・農業科、商業科、ライフデザイン科の生徒の中で、学科の専門分野に関連する上級学校や企業へ進んでいる割合が非常に少ない。新校においては、生徒たちが本当に学びたいと思える学科を構成し、生徒が勉強したことを後々の仕事に生かせるような取組が非常に大事ではないか。

→(事務局)

- ・企業から人材確保に関する要望もあがっており、いわゆる入口・出口については県教委としても問題意識もっている。より専門的で深い学びの追求と関連企業への就職、さらには融合した学びを生かした進路実現等について、これからの懇話会で議論していただきたい。

(生徒)

- ・建築系の就職を目指しているが、農業科で取得した資格等は将来に十分生かせると思う。
- ・音楽系の進学を目指しているが、商業科で学んだパソコンのスキル等は、これから生きていくうえで役立つと思う。
- ・服飾系ではなく保育士を目指しているが、保育士も服を製作する機会があることから、ライフデザイン科での学びは役立てられると思う。

○教育環境について

- ・新校の校地が一番の関心ごとである。最近、千曲市内の長野電鉄跡地が自転車・歩行者専用道路になるなど、千曲市の教育環境が劇的に変わった。そのような状況を考慮した上で改革案を示してほしい。

→新校の校地について、今後の懇話会で検討していく。地理的な条件等もしっかりと確認していきたい。また、跡地利用については、ご意見はいただくが懇話会で決めることはできない。

○新校の設置学科について

- ・産業界として、工業系や情報系の人材がこれからますます必要になってくる。工業科も取り入れた新校をこの地域につくっていただければありがたい。

→設置学科についても懇話会の中での議論内容に入っているため、皆様からの広いご意見をいただきたい。

○須坂創成高校の状況について

- ・須坂創成高校の進路状況について、統合前と統合後で比較した場合、後者の方が進学者の割合が伸びているのか。また、進学というのは、四年制大学、短期大学、専門学校のことを指しているのか。

→進学者の割合は学科によって異なるが、指定校推薦の関係等で商業科生徒の進学割合が多い。また、進学率の伸びについては、保護者の進学意識が増加してきたことも要因のひとつであるため、統合が進学率増加の要因であるとは一概には言えない。

- ・統合して総合技術高校になったことにより、大学入試における指定校は増加したのか。

→指定校の増加については、統合したからというよりは、少子化の影響が大きく反映されていると考えている。

○懇話会の進め方について

- ・これまでの懇話会では、抽象的過ぎる内容を議論しているのではないかと。そろそろ、本筋に入り、皆さんの本当の気持ちや意見を出し合い、メリットやデメリットがどこにあるのか等、突っ込んだ議論をしなければ、地域で問題となっていることや、地域の望みが表に出ないのではないかと。今後は、そのような運営を行ってほしい。

- ・グループ討議については、具体的なテーマをもって行わなければ意味がない。

→テーマが明確でなければ討議が深まらないというのは当然である。その点も含め、グループ討議をすることで個々の構成員からの意見や考えをお聞きし、それらを深掘りしながら新校の学びのイメージにつなげていきたいと考えている。

(5) その他

○懇話会開催時間について

- ・高校生が参加していることを考慮して、開始時間を30分早め、17時30分から19時までとしたい。(事務局提案)

⇒1時間早め、17時から18時30までとする(承認)

その他

【次回】

- ・日時：令和6年11月または12月(予定) 17時～18時30分
- ・会場：篠ノ井総合交流センター(予定)
- ・内容：学びのイメージについてのグループ討議(学校像・生徒像)

長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会グループワークについて

1 テーマ

- こんな生徒を育てたい（こんな力がついたらいいな）
- 目指す学校像（こんな学校があればいいな）
- ワクワクする学校にするには（こんなことをしてみたいな）

2 グループワークの概要

(1) 目的

- それぞれの構成員のご意見を伺う
- 「学びのイメージ」の策定に向け、イメージを共有する

(2) 進め方（時間は目安）

- 資料・注意事項等の説明（3分）
- グループでの意見交換（45分）
 - ①ワークシート記入（3分）
 - ②自己紹介（所属とお名前のみ）
各自のワークシート内容の説明（2分×5～6名＝12分）
 - ③出されたワークシート内容をもとにした意見交換（30分）
- 全体会（15分）
 - ①各グループからの発表（2分×6グループ＝12分）
 - ②まとめ・次回懇話会に向けて（3分）

⇒今回は、各グループで意見をまとめることはせずに、出された意見を事務局でまとめ、次回懇話会で焦点を絞り引き続き意見交換を行う
→懇話会にて確認

3 グループ分け：別紙（司会・記録係：事務局）

4 お願い（4つのルール）

- どのような意見も尊重（他の人の意見を否定しない）
- 自由に発言（突拍子のない意見も可）
- 質より量を重視（良い意見を出さなければと思わない）
- 他の人の意見に便乗も可（他の人の意見を発展させる）

5 参考

- 長野千曲総合技術新校懇話会およびアンケートで出された意見
- 更級農業高校ランドデザイン、学科改編「新しい学びのカタチ」
- 松代高校ランドデザイン
- 屋代南高校ランドデザイン
- 各校生徒による学校・学びの紹介（第2回懇話会資料）

長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会およびアンケートで出された意見（生徒像・学校像・学び）

	育てたい生徒像	目指す学校像	学び・地域連携
旧第4通学区 「高校の将来像を考える地域の協議会」意見・要望書(R3.8月) (総合技術高校に関する記述を抜粋)			<ul style="list-style-type: none"> ・学科の枠を越えた学習を可能とする教育課程 ・教科横断的な学習により各専門性を活かした協働した専門的学習 ・各産業に共通する知識・技術や地域産業について全生徒が学習する科目を設置 ・現在設置されている学科の他に、これからの時代や地域のニーズに応えることのできる新たな学科の設置
再編・整備計画【三次】(R5.1月) (考えられる学校像)		<ul style="list-style-type: none"> ・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科の生徒がファッションデザインを学んだり、家庭科の生徒が食品製造を学んでフードデザインに活かすなど、個々の興味関心や希望する進路などにより、他学科の科目の履修が可能 ・デジタル系新学科を結節点として、農業・商業・家庭の学びを融合させ、地域社会や地域産業に新たな価値を生み出すイノベーターを育成 ・地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用
第1懇話会(R6.1月)		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの高校で大切にしている学びの理念を残した新しい学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の弱体化が進んでいることから、それに真正面から取り組んでいく学科や科目の設置
第2回懇話会(R6.4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・進歩、変化が激しい現在の動向を学んだ、ある程度の国際的、先進的な物の見方ができる専門分野の基礎能力を持ち、更にその能力を高めようとする人材 ・新校で学び、将来はこの地域に戻り就職し、各企業の戦力となるような生徒 ・自ら探究的な学びを進め、自らが進路実現に向かう、自立していく生徒 ・長野県の産業・地域を支えとともに自身の幸せを追求できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に歓迎され、愛され、生徒の夢の実現に貢献できる学校 ・高校は社会に出るにための様々な学びができる場所 ・貴重な経験と思考が前向きにできる場所 ・AIの技術では成し遂げられない、人間力が学べる学校 ・人と人が繋がることの大切さを重視し、コミュニケーション能力、自分で考えて動ける人間を保護者と一緒に育む学校 ・専門性+αの学校（生徒の幅を広げることができる学校） ・生徒の希望する多様な学びに対応し、普通科では対応できないことにもチャレンジ ・地域企業との関係を強め、地域企業への就職に強い学校 ・教員が横断的に関わる、地域・企業がささえる学校 ・生徒とともに教師が育つ学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・先端テクノロジーとSTEAM教育の理念に基づいた協働的で共創的な学び ・教師の専門性を活かした教育課程の開発 ・3校の特色ある学びは新校でも引き続き取り入れた、更に深い専門的な学び ・農、商、ライフデザインと合わせて、工業科も取り入れ、お互いが連携できる授業体制 ・総合技術高校なら工業科必須 工業がなければ不十分 ・ライフデザイン科の学び ・福祉やデジタルなど新たな学び ・どの学科でも、情報を駆使した教育課程を編成 ・1人1台情報端末とクラウドを活用した個別最適な学び ・大学、専門学校に進学しなくても、新校で学んだことが即、実社会で通用する
第3回懇話会(R6.6月)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器などを上手に活用し常に新しい学びを生み出せる生徒 ・専門科目の学習を深め、興味関心からの「問い」を大切に探究学習から、課題に向かう力をつけた生徒 ・自ら課題を解決を行い、社会で生きる力を身につけた生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たち、地域、産業界等から期待される軸を持った、これからの時代を担う高校 ・生徒たちが主体的に楽しんで学べる環境 ・生徒たちが自らの興味を深め、将来のキャリアにつながるスキルを身につけられる環境 ・社会に出て早い段階から戦力として働ける人材を育てる専門性の高い授業や実践を多くした授業が受けられる環境 ・これまでの各校の特色をふまえて、良い意味での伝統や専門性を維持できる新校 ・「ライフサイエンス」をキーワードとした学校 ・マイスターハイスクールの認定が取れるような高水準の学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら探究心を持って学び、ある程度深く学んでいけるカリキュラム ・一斉授業からの脱却が大切 ・今の時代、教育に限らず多くの分野でAIを道具として活用することは必須であり、AIを生徒たちに駆使させる教育は新校に欠かせない ・有力な先生であれば、オンライン授業でも、学校でも、自宅にいても受けられるようにしたい（生徒自らが授業内容を考える） ・企業とのインターンシップや共同プロジェクトの実施、最新技術の導入支援などを通じて、実践的な教育を提供 ・小学生を導く等、異年齢交流授業も取り入れることも生徒たちの興味を更に引き出すことになる ・地域と連携したデュアルシステムの教育 ・学校と地元の経済・産業界がより広く深く連携できる体制の構築
第4回懇話会(R6.9月)			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が勉強したことを後々の仕事に生かせるような取組 ・工業系や情報系の人材がこれからはますます必要であり、工業科も取り入れた新校

『長野県更級農業高等学校 [全日制課程] のグランドデザイン』

≪「新学習指導要領」で目指す資質・能力≫

- ・生きて働く「知識・技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

≪生徒・学校の実態≫

- ・自ら進んで挨拶ができる生徒 ・専門性を活かした地域交流活動が活発
- ・高校3年間の系統立てたキャリア教育・地元企業を中心とした高い就職実績
- ・基礎学力の定着度、主体的に学ぶ姿勢に個人差
- ・思考力、創造力の育成と課題研究の質的向上に課題

≪社会状況と未来予想≫

- ・6次産業化 ・産業の高度化
- ・AI・IoT等の技術革新
- ・グローバル化 ・地方創生
- ・持続可能な農業を支える人材

教育目標「実践的な知識・技術を身につけ、地域社会の核として地域産業(農業)の持続的発展に貢献する産業人の育成」

3年間の学びでこのような生徒を育成します

- ① 各教科・科目の学びから学習習慣と基礎学力を身につけ、農業分野の専門知識・技術を育成します。
- ② 実験実習・課題研究に力を入れ、課題を発見し解決するための思考力や創造力、発表力を育成します。
- ③ 学びの成果を社会に還元する意欲と自ら学び続ける力を備え、地域創生に協働的に取り組む態度を育成します。
- ④ 基本的な生活習慣が身につけ、協調性があり、思いやりの心や豊かな人間性・社会性をもった生徒を育成します。



「重点目標」① 基礎学力向上と農業教育の充実 ② 探究的授業による思考力・課題解決力の育成 ③ 基本的な生活習慣の確立と規範意識・社会性の育成

1年次

① 学習指導・生徒指導

- ・基礎学力の向上、自ら学ぶ姿勢と学習習慣の確立
- ・農業学習への関心・目的意識の自覚、資格取得推奨
- ・実験実習レポート作成、課題発見・発表力の育成
- ・少人数習熟度別授業(1・2年 英語・数学)
- ・ICT活用力の育成
- ・基本的な生活習慣と身だしなみ指導の徹底

② キャリア教育

- ・地元企業ガイダンス(産業への理解、地域の課題発見)
- ・長期休業での農業研修

③ 農業クラブ活動 各種発表・競技・検定

2年次

① 学習指導・生徒指導

- ・農業実習⇒専門的知識・技術の習得、忍耐力・協調性の育成
- ・コース選択⇒農業各分野の基礎的知識、技術の習得
- ・コースの特性を生かしたプロジェクト学習と資格取得
- ・教科間の連携授業
- ・規範意識と責任感、人権感覚の育成

② キャリア教育

- ・インターンシップ(行政・企業・先進農家・農業法人と連携)
- ・学校見学・進路目標の明確化
- ・長期休業での農業研修

③ 農業クラブ活動 各種発表・競技・検定

3年次

① 学習指導・生徒指導

- ・プロジェクト学習・研究発表⇒農業に関する地域の課題を発見し、協力して解決しようとする態度、論理的思考力、創造力、表現力を育成
- ・6次産業化学習⇒地域特産品を使った商品を考案
- ・大学研究機関との連携⇒「遊休農地の活用」他
- ・農業技術を活かした地域交流活動「農業塾」他
- ・アグリマイスター顕彰制度の活用 ・倫理観と社会性の育成

② キャリア教育

- ・進路実現に向けた主体的な進路選択力の育成
- ・長期休業での農業研修

③ 農業クラブ活動 各種発表・競技・検定

このような生徒を待っています

- ① 農業・食料・環境の学習に関心が高く、目的意識をもって意欲的に学ぶことができる生徒を待っています。
- ② 身につけた専門性を活かし、地域・産業界のリーダーとして社会に貢献しようとする気概をもつ生徒を待っています。
- ③ 生徒会活動や部活動で活躍し、入学後もそれらの活動に積極的に取り組みたい生徒を待っています。

指導の検証・学校改善

- ① 「学びの基礎診断」テスト
- ② 各種検定・資格取得状況
- ③ 授業評価・ポートフォリオ
- ④ 学校評価(内部・外部)

令和7年度 長野県更級農業高等学校 【新しい学びのカタチ】

くくり募集

3学科6コース

地域園芸科
食農科学科
植物活用科

NEW

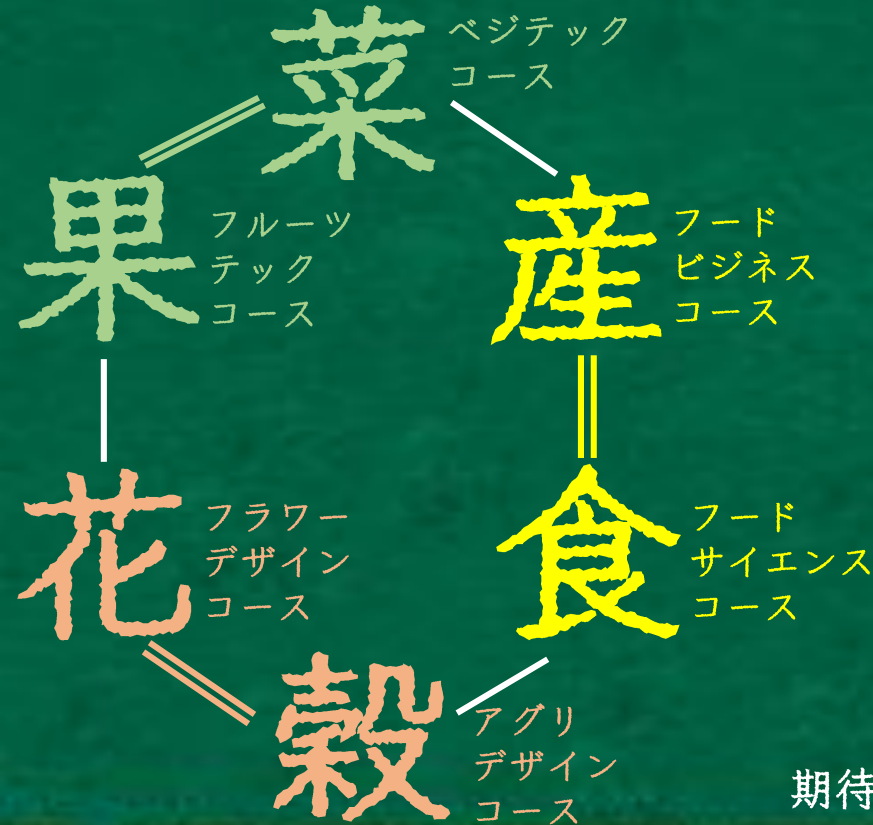
農業

を学ぶ
で学ぶ
に学ぶ

…地域産業を支える人材育成

…多面的なチカラを持つ人材育成

…地域社会のミライを考えられる人材育成



このう
輝農へ

たがやせジブ。高めりジブ。



なりたい
ジブへ

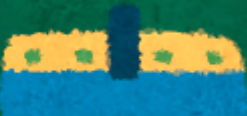
- ①目的意識がある！
- ②多面的なチカラを身に付けたい！
- ③地域の産業に貢献したい！

期待される生徒像

- 1年次／基礎
- ・農業の基礎学習
 - ・基礎学力の定着
 - ・学ぶ姿勢の確立

- 2年次／発展
- ・コースの専門学習
 - ・自ら探究し、情報をまとめる学習

- 3年次／挑戦
- ・地域と協働した研究
 - ・進路実現に向けた主体的選択力の育成



長野県松代高等学校 [全日制課程] のグランドデザイン

生徒や保護者から「松高に入学して良かった」と思われる、面倒見の良い学校

民間企業

公務員

4年制大学

短期大学

専門学校

(就職) 進路実現 (進学)

社会人基礎力

- ①基本的な生活習慣 ②社会人としてのマナー ③思いやり
④協調性 ⑤コミュニケーション能力

地元企業に強い！
どこにも負けない就職指導でサポート

企業見学

学校見学

生徒会活動

商業科

- ・職業人の知識、スキルをじっくり身につける
- ・検定、資格の取得
- ・資格を活かした進学
- ・商品開発
- ・販売実習

商業科普通科
両方あるからできる
多彩な選択科目

「総合的な探究の時間」

「地域との連携」

普通科

- ・基本を大切に、応用力を育てる
- ・進路実現のために意欲を活かす幅広い選択科目制
- ・個別指導の充実

ボランティア

インターンシップ

クラブ活動

学科の特性を活かした進学指導でサポート

習熟度別講座

基礎学力の定着

少人数講座

(期待する資質) 学習意欲 粘り強さ 素直 積極性 思いやり 社会貢献意欲



長野県屋代南高等学校 グランドデザイン

こんな生徒を育てます



自主的に問いを立て、検証と考察を繰り返しながら問題解決を図る力を育成します



多様性を尊重し、互いのよさを生かしながら目標に向けて仲間と切磋琢磨する誠実さを育成します



一步前に踏み出し、自らの限界を少しでも超えようと努める姿勢を育成します

1

基礎基本の定着

主体的な授業参加

中学生に期待すること

学校生活に積極的に取り組む姿勢

2

確かな知識・技能や技術の習得
多様な意見や価値観を理解する力

3

知識や技能、技術を相互に関連付け、活用できる力

地域の中核を担う人材

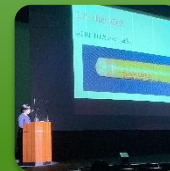
学校での学び



少人数編成授業の利点をいかし、対話を重ねて課題解決を図る授業



探究活動により複眼的な視点から発信を広げ、クリエイティブマインドを育てる学び



多様な価値観を認め合い安心して学べる環境で自己肯定感を高め粘り強く取り組む姿勢を伸ばす学び